

水源神社のイトヨ講座

質問(相馬大蔵議員) 水源神社から湧出する清流に生息するイトヨについて伺います。

答弁(教育次長) イトヨは、トゲウオ科に属する背中に数本のとげがある淡水魚で、湧水のある湖沼や池、それに連なる細流など、水生生物の繁茂する水域に生息しています。サケのように稚魚が海に下る降海型と、一生内陸の淡水域で暮らす陸封型とがあり、本市のものは陸封型であります。産卵期には雄がトンネル状の産卵



小学生のアイマスク体験

床をつくり、雄が卵を守るという特異な習性を持っており、環境省のレッドリストでは、福島以南の陸封型イトヨは絶滅のおそれのある地域個体群に指定されております。

本市では、イトヨ生息地として、親園の田谷川が県指定天然記念物に、市野沢のおかんじち川が市指定天然記念物に指定されており、他にも宇田川地区や元町地区でも生息が確認されております。

ご指摘の水源神社のイトヨに

福祉教育講座

質問(小野寺尚武議員) 教育長の考える福祉教育とはどのようなものなのか、またそれらをどう実現していくのか伺います。

答弁(教育長) 福祉教育の取り組みについてお答えいたします。現在市内すべての小・中学校において総合的な学習の時間を中心に各教科、道徳の時間、特別活動の時間などを用いてアイマスク体験や車いす体験などのさまざまな体験活動を通じた福祉教育に取り組んでおります。

こうした体験活動がさらに充実するよう、福祉関連の補助金を市内全校に拠出しておりますし、また市社会福祉協議会でも疑似体験機材や映像資料の貸し出し、職員の派遣など各学校の体験活動の支援に力を注いでいるところであります。

特に市社会福祉協議会と学校の先生方で組織する大田原小・中学校福祉教育研究会が小冊子「ともに生きる」を作成し、これを体験活動を行う前に正しい知識を

身につけるためや体験後の振り返りや話し合いに利用し、非常に大きな成果につながっているものと考えております。

高齢化が進む社会、ノーマライゼーションが叫ばれる社会にあつて、福祉教育を充実させることは必要不可欠であります。福祉教育を極めて重要な教育内容ととらえ、学校はもちろん関係機関等の連携を図りながら、より一層充実した教育活動ができるよう全力で取り組んでまいります。

ついては、旧制大田原中学校の教師であった渡辺喝山氏の著書「須野の科学」の中には、「明治四十年に親園地区のイトヨを採取し、何度か水源神社の湧水池で飼育したものの、大水で流されてしまったが、昭和二十四年には下流でとげの生えた魚が網にかかるというのを聞いた」とありますことから、水源神社のイトヨは古く明治から生息していたと思われるからです。しかしながら、現時点での生息は確認しておりませんので、今年度中には生息調査をしたいと考えております。



オスのイトヨ(写真 栃木県なかがわ水遊園提供)